

## 柏市大松遺跡（12）

事業名 柏北部東地区土地区画整理事業  
所在地 柏市小青田字大松 334-1 ほか  
調査期間 平成17年1月19日～平成17年3月29日  
調査面積 3,110 m<sup>2</sup>  
主な時代 旧石器時代、縄文時代  
主な遺構 竪穴住居跡  
主な遺物 旧石器時代石器、縄文土器

### 注目される遺物

発掘調査は10年以上前に実施されましたが、近年の整理作業で重要な旧石器時代の石器が含まれていることが明らかとなりましたので、ここで紹介します。

この調査地点では、縄文時代前期の竪穴住居跡の覆土中から旧石器時代の石器が比較的多く見つかっていますが、その中で、2点の彫器（彫刻刀形石器）が特に注目されました。この2点の彫器は、剥離の方法や形状などから、「神山型彫器」と考えられます。

彫器（彫刻刀形石器）とは、剥片などの一端に細い溝状の剥離を加えたもので、この部分が彫刻刀の刃先に似ていることからこのように名付けられています。その用途については明らかではありませんが、物を削る道具ではないかといわれています。

神山型彫器は、新潟県中魚沼郡津南町に所在する旧石器時代の神山遺跡から出土した彫器を標識としています。石刃を素材とし、末端部裏面片側に細かい剥離を数回加えたのち、そこを打面として表面に彫刻刀面を作り出すという特徴をもっています。

その分布範囲は狭く、現在のところ、中部や東北地方だけに限られているようです。

写真上の石材はメノウで、茨城県・栃木県方面に産出する資料、下は硬質頁岩で、東北地方から阿賀野川・信濃川流域の資料とよく似ています。

中部・東北地方に限定的に分布する神山型彫器がどのような経緯でこの遺跡に持ち込まれたのかは、今後の課題となっています。



神山型彫器（上は長さ4.1 cm、下は5.5 cm）